

2024年度

アカデミックポテンシャル入試

60分

清泉女学院中学校

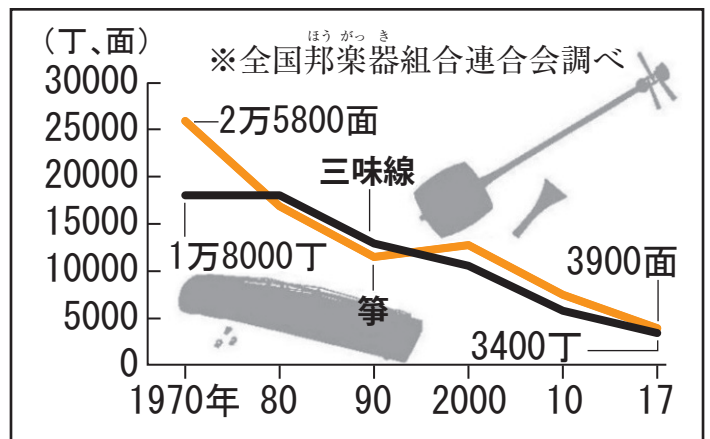
「和楽器の未来」

次の文章を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

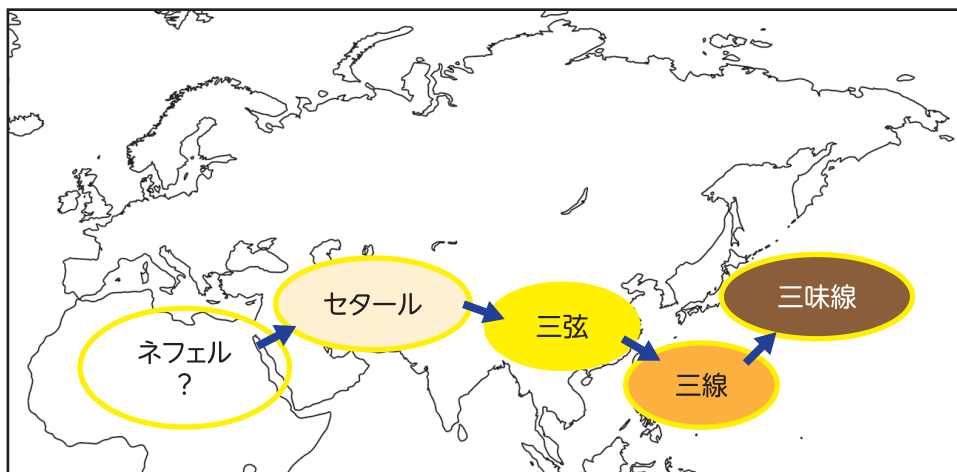
私たちの身のまわりには、様々な楽器があります。みなさんも、①リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、音楽の授業で演奏したことがあるのではないのでしょうか。日本には昔から演奏されてきた伝統的な楽器がいくつもあり、それらは「和楽器」と呼ばれています。日本における楽器の歴史は古代までさかのぼり、埴輪にも楽器を弾いているものがあることが知られています。その後、②奈良時代～平安時代にかけては中国大陸から様々な楽器が伝わり、日本の音楽文化は大きくAハッテンしていきました。たとえば、箏(別紙資料の和楽器図鑑I)は奈良時代に唐から伝来したものが原型とされています。

また、代表的な和楽器として三味線(和楽器図鑑II)があります。三味線は、室町時代後期に琉球から船で運ばれてきた当時の三線(和楽器図鑑III)がもとになって生まれたと考えられています。ここで、三味線のBキゲンについて見ていきましょう。下の地図は、三味線のルーツを示しています。三味線のもととなった三線は、中国の三弦という楽器がもとになっていると考えられています。さらに、三弦はシルクロードを通じてイランからやってきたセタールという楽器がもとになっていると考えられています。では、そのセタールはどこから来たかという、古代エジプトで演奏されていたネフェルという楽器がもとではないかと考えられています。このように、私たちの身のまわりには、ある国で発明された楽器が別の地域に伝わって変化し、新しい楽器になったものがあるのです。

近年、伝統的な和楽器を演奏する人は減少しています。そのため、右の(図1)のように三味線や箏の販売数も減少しています。このままでは、和楽器を演奏する人はもちろん、和楽器を製作し、壊れたときにはCシユウリする職人などがいなくなり、和楽器に関連する文化は衰退していつてしまうかもしれません。



(図1) 三味線と箏の販売数
読売新聞オンラインより作成



三味線のルーツ

問1. 文中の下線部A～Cを漢字に直しなさい。

問2. 図1の単位に「丁」、「面」とありますが、丁(本来は「挺」^{ちよう}と書く)は三味線の数え方、面は箏の数え方です。それぞれの楽器と同じ数え方をするものを、次のア～エの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 三味線(丁・挺)

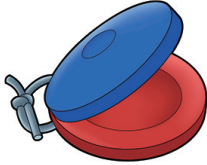









ア 自動車 イ タンス ウ ひとそろいの靴^{くつ} エ 獵銃^{りやうじゆう}

(2) 箏(面)

ア いす イ 皿 ウ 新聞のページ エ ひとつかたまりの食パン

問3. 2017年の箏の販売数は、1970年の販売数の約何%か計算しなさい。答えは小数点以下第二位を四捨五入し、小数点第一位まで求めなさい。

問4. 下線部①について、次の図2は、身近な10種類の楽器を示したものです。泉さんと清子さんは、これらの楽器を次のページのように2つのグループに分類しました。泉さんの例を参考にして、清子さんの分類のしかたについて説明しなさい。

カスタネット	ギター	けんぼん 鍵盤ハーモニカ	タンバリン	てっきん 鉄琴
				
トライアングル	トランペット	もっきん 木琴	リコーダー	わだいに 和太鼓
				

(図2)

〈例〉泉さんの分類

Aは吹く^ふ楽器、Bは吹かない楽器

Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none">・鍵盤ハーモニカ・トランペット・リコーダー	<ul style="list-style-type: none">・カスタネット・ギター・タンバリン・鉄琴・トライアングル・木琴・和太鼓

清子さんの分類

Aグループ	Bグループ
<ul style="list-style-type: none">・ギター・鍵盤ハーモニカ・鉄琴・トランペット・木琴・リコーダー	<ul style="list-style-type: none">・カスタネット・タンバリン・トライアングル・和太鼓

問5. 下線部②について、奈良時代～平安時代の生活や文化について書かれた文として正しくないものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 年中行事として、正月のお祝いや端午^{たんご}の節句、七夕などの行事が行われた。
- イ 石や砂を使って、山や川などの自然風景を表現する様式の石庭がつくられた。
- ウ 女性たちによって、かな文字を使用した物語や随筆^{ずいひつ}などの文学作品がつくられた。
- エ 全国から集められた農民や、渡来人^{とらいじん}たちが関わり、東大寺の大仏がつくられた。

問6. 右の写真は、沖縄県を中心に親しまれている三線^{さんしん}です。三線の楽譜^{がくふ}には、「工工四（くんくんしー）」と呼ばれる漢字を並べて書いたものが用いられてきました（図3）。この漢字は、3本の弦^{げん}のどこを押さえるか^おを表しており（図4）、休符^{きゅうふ}は「○」で表します。

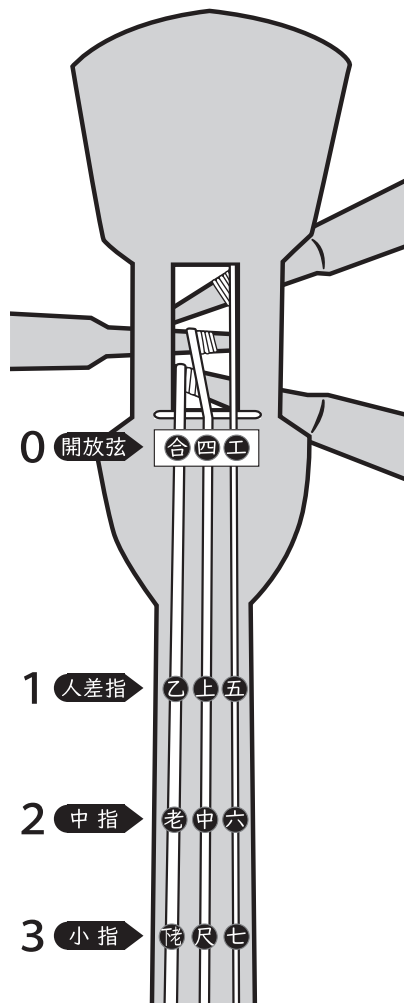
いま、「島唄^{しまうた}」の工工四を、数字の楽譜^かに書き換えています（図5）。この楽譜は、3本の弦のどこを押さえるかを数字で示しています。どこも押さえない場合（開放弦）は0とし、休符は斜線^{しやせん}（/）を引きます。図3～図5を参考に、楽譜の続きを完成させ、解答欄^{らん}に記入しなさい。

著作権の関係上、省略

文化ライブラリー HPより

六	カ	合	デ
七	ゼ	老	イ
尺	ヲ	四	ゴ
合	ヨ	○	
中	ビ	四	
尺	ア	中	ノ
上	ラ	尺	ハ
四	シ	工	ナ
老	ガ	六	ガ
上	キ	七	サ
四	タ	工	キ
○		合	

(図3)「島唄」の工工四（一部）

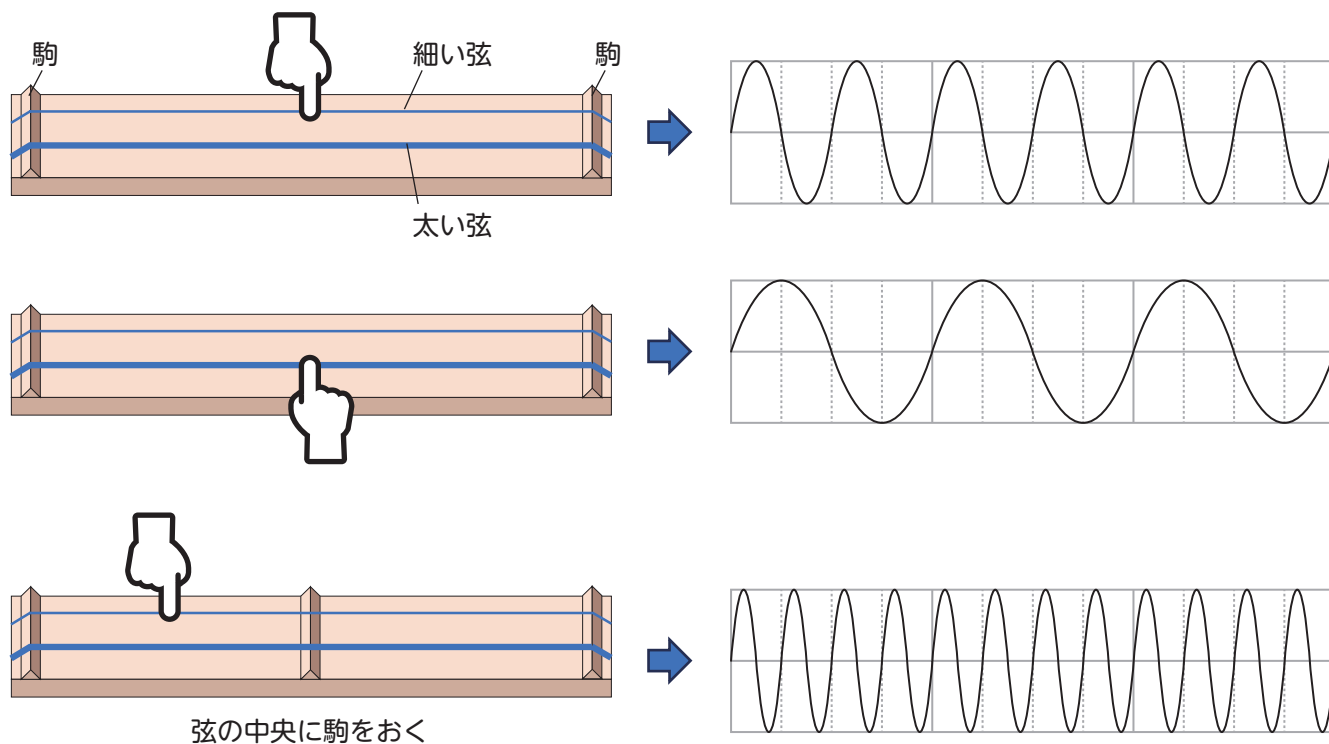


(図4) 工工四の漢字と押さえる弦の関係
『沖縄三線 初歩の初歩入門』（ドレミ楽譜出版社）より作成

0	2	0	/	0	2	3	0	2	3	0	0
デ	イ	ゴ		ノ	ハ	ナ	ガ	サ	キ		
カ	ゼ	ヲ	ヨ	ビ	ア	ラ	シ	ガ	キ	タ	

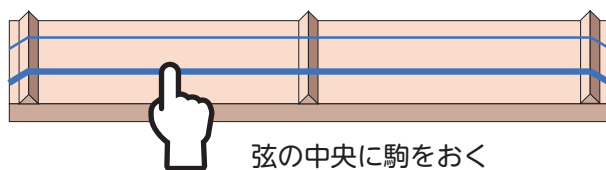
(図5) 数字の楽譜

問7. 清子さんは、図工の宿題で1枚の板の両端に駒を取りつけ、細い弦と太い弦の2本の弦を張った楽器をつくりました。これを先生に見せたところ、先生が「オシロスコープ」という装置を出してきてくれました。オシロスコープとは、マイクに楽器の音を入力すると、その音の高さと大きさに応じて、波の形が画面に映し出される装置です。次の(図6)は、弦をはじいた場所と、そのときのオシロスコープの波形を表しています。ただし、弦をはじいたときの音の大きさは、すべて同じでした。

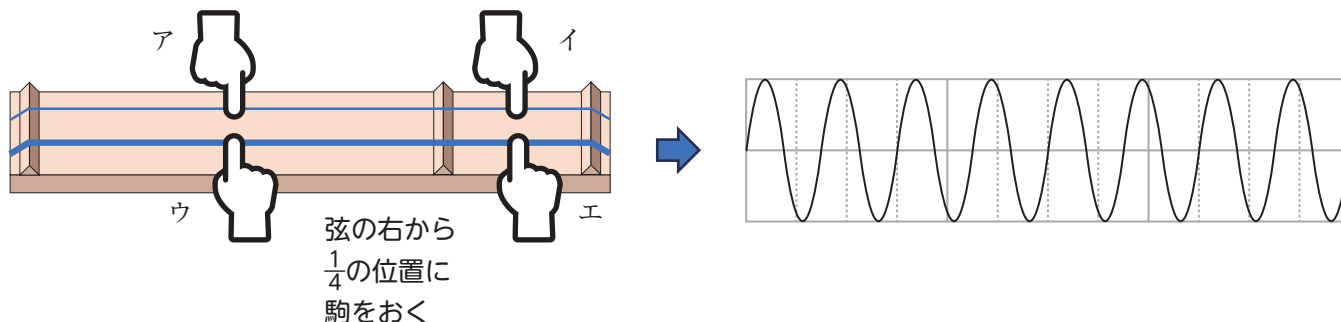


(図6)

(1) 次の図の位置に駒をおき、太い弦をはじいたとき、オシロスコープの波形はどのようになりますか。解答欄に作図しなさい。



(2) 次の図の位置に駒をおき、ある場所をはじくと、オシロスコープの波形が図のようになりました。弦をはじいた場所として正しいものを、図のア~エの中から選び、記号で答えなさい。



問8. 伝統的な三味線の皮には、犬や猫^{ねこ}などの動物の皮が使われています。近年は、動物の皮の代わりに人工的につくられた化学繊維^{せんい}の布（人工皮）も登場しています。

三味線の伝統文化を未来につなぐためには、どのようなことが必要だと考えますか。別紙資料を参考にし、動物皮の使用、人工皮の使用の両方の観点から述べなさい。